



市役所前で挨拶する議員団といそみ県議

過去 2 番目の大型予算

もっと”暮らし”応援を!

2月15日、西宮市は2016年度当初予算を発表しました。15年度を1.4%上回る過去2番目の大型予算となっています。

「シティプロモーション」「都市ブランド」などが強調されますが、目玉的な新施策はなく、第2庁舎整備など大規模な公共施設整備の準備段階の予算がズラリと並んでいます。安倍暴走政治から市民を守る防波堤となる予算と言えるでしょうか。

ひどい!

難病患者見舞金廃止

昨年の3月議会では、市長が市民にも議会にも報告せずに難病患者の皆さんへの見舞金の廃止、高齢者交通助成金の減額を提案しました。議会では「福祉切り捨てだ。元にもどせ」と修正案を提案、全会一致で可決し、難病患者の見舞金、高齢者交通助成金5000円を守ることができました。

ところが、新年度予算案では、難病患者見舞金を廃止するとの提案。市は、難病法の施行により医療費助成の対象となる難病が56から306疾病に広がり、負担が軽減されると、廃止の理由を説明していますが、医療費は市民税非課税世帯では、無料から2割に負担が増えることとなります。

原因不明の難病で苦しむ皆さんへの、わずか年間2万円の見舞金は継続すべきです。

国保への繰り入れと維持 高齢者交通助成金は維持

一方、高齢者交通助成金は16年度、5000円を継続する提案ですが、17年度に向けて減額の動きもあり、油断できません。まだまだ高すぎる国民健康保険料を引き下げるための繰り入れは、15年度と同様の7億円が予定されています。16年度保険料の最高限度額が81万円から85万円に引き上げられ、このことによって低所得者は若干保険料が下がりますが、根本解決にはなりません。約23億円にまで膨らんだ基金を活用し、さらに一般会計からの繰り入れも増やして、保険料を引き下げるべきです。なお、国民健康保険事業は18年度より、市単位から都道府県単位へと広域化されますが、当面、これまでどおり保険料の算定は市単位で行われ、市独自で一般会計から繰り入れて、保険料を引き下げることは可能です。

また、兵庫県後期高齢者医療広域連合が2016、17年度の保険料を、均等割48297円、所得割10.17%にそれぞれ694円、0.47ポイント引き上げを決定。

基本水量制を見直すも 水道料金値上げへ

西宮市の水道料金は、月当たり10^mまでは、使っても使わなくても同一料金(基本料金=1040円、基本料金は使用量ゼロでもかかります)を徴収する基本水量制を採用していましたが、新年度にこれを見直し、基本料金を955円に引き下げるとともに、1^mから使った量に応じて料金を徴収する従量制に変更します。その結果、6^mまでの水を使用する約18%の世帯は料金値下げになります。

一方で、節水機器等の普及で今後も水需要が伸びず資金不足になる見込みとの理由で、平均6.8%の値上げも提案されています。下水道料金も同様です。

施設再整備計画が次々 第2庁舎は慎重に

今村市長は、「財政危機」を理由に、前市長のアサヒビール跡地計画を中止しましたが、新年度予算案では市役所周辺での第2庁舎整備(約96億円)など、各種施設の再整備事業に次々着手しようとしています。

アサヒビール跡地計画を中止したことに伴う、西宮消防署(津門大塚町)と、体育館・陸上競技場(河原町)現地建て替え整備に加えて、高畑町に移転したわかば園跡地を含めた総合福祉センター周辺福祉ゾーンの再整備や旧芦原小のグラウンド再整備などです。これらは、新年度は基本計画策定や基本設計に着手し、17年度以降に整備費用が計上されることとなります。

どの施設も市民にとって必要なものとはいえ、特に第2庁舎の整備は莫大な経費がかかり、本庁舎や市民会館も今後更新が課題となるだけに、慎重な対応が求められるのではないのでしょうか。



アベノミクスで個人所得は落ち込むものの市の財政は「安定」

先ごろ発表された2016年度当初予算案。歳出では、消費税10%にもなう「選挙目当て」といわれる3万円給付金（低所得高齢者対象）に13億3500万円、市営甲子園春風団地の建て替え5億7848万円、中央病院の大規模改修に6億6200万円、焼却場基幹設備更新4億8665万円などが増額。今年度とりくまれた高木北小新設、南甲子園・上甲子園小の増改築がほぼ終了し、教育費が約64億円減となっています。マイナンバー、UR借上げ市営住宅からの追い出しも引き続き予算計上されています。

歳入では、大企業は過去最高の収益をあげ、個人消費は落ち込むというアベノミクスの影響が色濃く出ています。個人市民税の落ち込みと安倍政権が強行した法人税減税で市民税は4億9300万円の減収。一方、好調な企業業績、活発な株式取引による配当割交付金などが8億9000万円の増額。地方交付税は、人口減少等特別対策事業8億8900万円の上乗せはあるものの、振替財源である臨時財政対策債の5億4400万円減により、実質3億4200万円の増額にとどまります。

市債（借金）は69億円減少し、震災前の水準に戻りました。基金（貯金）の取崩しも前年より11億円減を予定し、市が自由に使える一般財源は前年より増の1126億6千万円にのぼり、「危機」どころか「安定」した財政と言えます。



	2016年度	2015年度	前年比
一般会計	1,747.04	1,749.42	-2.37
特別会計	943.83	911.08	32.74
企業会計	464.90	450.64	14.25
総計	3,155.78	3,111.16	44.62

	2016年度	2015年度	前年比
市税	845.19	844.88	0.31
譲与税・交付金	105.47	96.68	8.79
地方交付税	53.88	45.02	8.86
臨時財政対策債	60.56	66.00	-5.44
その他	7.60	7.43	0.16
財政基金取崩し	43.89	44.57	-0.68
減債基金取崩し	10.00	20.00	-10.00
総額	1,126.60	1,124.58	2.01

*2015年度は議会による修正後の金額

こんな前進面も

新は新規事業、施策

<子育て支援>

- 留守家庭児童育成センターで通年4年生受入れ4か所でモデル実施（鳴尾、上甲、西宮浜、高須）
- 育成センター 夏休み等の開所時間を8時に繰り上げ4か所モデル実施（か所は未定）
- 育成センター改修 樋ノ口（新築）、香櫨園（増築）、深津など5か所
- 新こどもの貧困対策調査・体制整備計画策定
- 新寡婦（夫）控除のみなし適用で、婚姻歴のないひとり親家庭の保育料等を軽減
- 新保育士確保のため、資格取得費への補助等
- 訪問型病児保育に助成
- 浜脇保育所・児童館の大規模改修（設計）
- 引き続き保育所待機児童対策

<防災・防犯・安全>

- 新自治会等の防犯カメラ設置に補助金交付
- 新防犯灯の市直営化とLED化
- 新甲子園浜に消防訓練施設
- 新西宮消防署建て替え（測量委託）
- 新阪急神戸線踏切解消（連続立体交差）に関する予備調査
- 新建物耐震化促進のため住宅建て替え補助金交付
- 新空き家対策実態調査と対策計画策定

<学校施設の整備>

- 香櫨園小の増改築（基本設計・実施設計）
- 西宮養護学校改築（現地建て替え、工事中は尼崎養護学校へ仮移転の設計方針策定）
- 新春風小校舎増改築（基本設計策定）
- 新安井小校舎増改築（基本計画策定）
- 新深津小校舎増築（基本設計・実施設計）
- 小学校普通教室・特別教室へのエアコン設置11校（これで小中すべて設置）
- 小中学校へのエレベーター設置3校と、未整備の残り5校の設計業務

<福祉>

- 重度障害者の訪問入浴を週1回→週2回
- 福祉タクシーの対象を精神障害者にも拡大
- 特定不妊治療助成額の拡充と男性不妊治療の助成拡大
- 新認知症高齢者行方不明早期発見のためのSOSメール配信

<施設整備>

- 新河原町の新体育館・新陸上競技場整備（地盤調査、基本計画策定着手）
- 新染殿町の総合福祉センター再整備（旧わかば園解体、いずみ園移転新築に着手）
- 西宮浜総合公園・御前浜公園整備（スポーツ広場、入り口公園等工事）
- 新旧芦原小学校グラウンド再整備（測量、基本設計等）
- 新アクタ西宮ステーション5階へ移転増床と業務拡大